

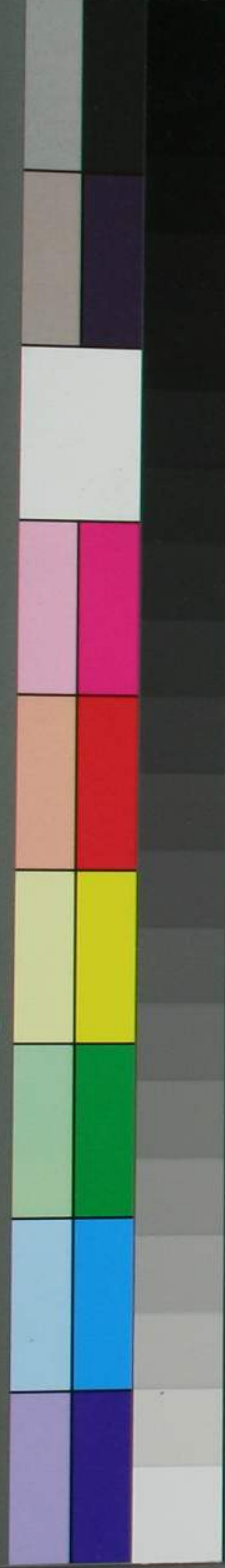
KODAK
LICENSED PRODUCT

M

T

S

KODAK Gray Scale



茶湯秘傳圖式一

彦
624
1





家傳書

大德書

茶苑

古
今
三
傳

藝



門ヲ多
番 627
卷 4

千家流
古織流
遠州流

三傳輯



茶湯秘傳圖式

浪華書林

文淵堂梓

茶之湯三傳集序

今夫茗ハ古久ノ傳謂食物之大義味苦其清
 頭目故心是ヲ主ト凡唐ニハ高貴仙家之翫
 也和朝ニテモ尚諸侯太夫是用玉フ朋友交
 之隨一ニテ愛敬ヲ本トシ尊卑ヲヘダテ
 ズ下民トシテハ上ニ交爲上ハ下ヲ捨ス且
 四端之感ノ又茶器ハ當代之弄ヒ高家富
 宥之六宝也故古昔珎器ヲ秀逸トス爰恨世
 人は是ヲ無用遊真之業トノ思一リ其故ニ
 道有事ヲ不知我意ヲ以本意セリ嗚呼嘆哉
 五常之經アル事ヲ今此書ニ傳集ハ千字易



利休居士古田織部正小坂遠州三代宗近傳
来善之要ナル物ヲ頗蒐輯シテ以次序ヲ全
ク正明テ四卷トス世人是ヲ取バ一哭之媒
ト思ヘド是ハ愚之微意也見ニ人又此書ノ
中之萬一ヲ取テ補ヲ庶幾ト云爾

茶之湯秘傳圖式卷之一

花之卷

- 花梅此事
- 花燭此事
- 花客へ一少之此事
- 賓花此事
- 移徒花此事
- 出陈花此事
- 花心此事
- 德之花生此事
- 船之花乃事

炭之枝燻の事

月之炭盛之部

炭此亦く

之五く大炭あり庄八川此事

之五く大炭あり此事

之五く大炭あり此事

一五く大炭あり此事

一五く大炭あり此事

凡燻炭子あり此事

袋棚燻子あり此事

炭子燻子あり此事

炉燻子時三庄此事

炭寸法此事

凡燻炭寸法之事

燻炭寸法此事

凡燻炭寸法此事

凡燻炭寸法此事

炭寸法此事

自炭燻此事

炭燻此事

炭燻此事

炭燻此事

本化行口此口傳書
花子誤比書

花梅之事

- 一 花籠より多く花を入 水次 花切 花子
- 一 布を布うく字方切梅の花として服着せしと
巾い又花板木此花屋たる時ぬくも一花の
花板大厚深サ二尺此時ハ花梅の事とす
此花板此時花梅の事とすハ花梅の事とす
一 花板ハ六十八ハ花梅の事とすハ花梅の事とす
一 置花生此水緒と此花梅の事とすハ花梅の事とす
一 花一葉ハ花一葉六花六葉梅の花とす
一 花葉とす花葉とす花とす花とす花とす花とす

一 梅の花は葉の先に花の盤はらがけりか横のうら
ハふ若也葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅
と生る葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅
と生る葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅

一 梅の花は葉の先に花の盤はらがけりか横のうら
ハふ若也葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅
と生る葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅

一 梅の花は葉の先に花の盤はらがけりか横のうら
ハふ若也葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅
と生る葉は花のうらと花のうらと生るうら一若く大梅

一 花は細切と云明はたさハ白き花とあ方りて赤
き花と赤あかなるを花と切と云は下なる
縁と縁のうらがしきふた有か横のうら切首は入横
一 花は細切と云明はたさハ白き花とあ方りて赤
き花と赤あかなるを花と切と云は下なる
縁と縁のうらがしきふた有か横のうら切首は入横

一 花長テハ一寸と高くふき無一花は二花のうら
三ハ蓮花牡丹水仙菖蒲の横のうら切首は入横

生る時ハ花生ふく一生る花此花花花花花ハ長ク高キ花
ハ高ク生ケ卑いく生ケ能ク花卑いく生ケ高ク生ケ能ク

花類此変

- 一 花ハ花類 桜花類 茶花類 萩花類
- 二 花ハ花類 けいり花 けいり花 百合花 如花花類
- 三 花ハ花類 浮花仙花 牡丹花 桔梗 芍薬
- 四 花ハ花類 山花らぎ 三花花類 三花花類 三花花類
- 五 花ハ花類 三花花類

花類此変

一 花入ニ花生ハ水七八分程入ク花花也花花入ニ花
定テ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指

向テ存花花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指
二 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指
三 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指

花類此変

一 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指
二 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指
三 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指

一 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指
二 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指
三 花ハ花類ニ花ト入指出花する又ハ花ハ指

至先二花と二柄柄と依念息して静く生備へる
うらゝきながらすらへ下ゆはるゝあつこ

一 亭を流流に上る花は角柱、指てあうそあうそ

ついで一花は事

一 花生於、白きつきの葉の若く若く一赤き花はたうら
嬌あふ火は字と忘心くそ外は事、ひらひら

出陳花は事

一 竹と立を由於と云明らる他あそ切と心はる
か一葉をよと在言答心とらる

一 従之、椿と用ひ心はるそちよとと故あ

花心は事

本より草と高く立於りる在奇なり

菱山は葉花をけぞ志と進けけ

春尼一小事人一ひつこ

一 菱花せんぐうそ外弱き花、咲き切らるが
吾一他路を去れ文く咲れ実、ハるそ切て水

生しらくわくわく

一 蒸して水は六樹へ足通極、根は花ははる

が中一あつこ

一 花を過は花水にそ杜若はるの指は数、水はハ
あつこ一花生大は能く余は花、根は花は事
さうふあつこ水は過ははるそちよとと故あ

たつ 生るぬちと水色此心く乞と真珠花柳花

一 河骨花生花よハむ 唇口花生也常此花ハ水此心ハ

生るぬちと水色此心く乞と真珠花柳花

ハ水色此心く乞と真珠花柳花

花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一本花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 石竹花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

一 咲ひ此花柳花ハ水色此心く乞と真珠花柳花

かゆらぎてあし廿故根と切て花と上とを打
こく花は年ごらうと依りて入るお下と流くこく
出らるる水は此しくす

一 停春出る花は年ごらうと依りて入るお下と流くこく正
花は難成お此舊言各こく

一 停株せしげんお此類もるるおこく

熊花生て青

一 上と下と流くこく一 熊花入るるおこく
流くこく一 出らるる花よき

一 花とて熊花入るるお此依りて流くこく
水らわらるる花は此類もるるおこく

一 熊花生て青一 花は此類もるるおこく

一 熊花生と流くこく置花は此類もるるおこく

一 小体は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 掛花入るるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一 花は此類もるるおこく置花は此類もるるおこく

一ニまゆりといふ人しつるまゆり上は花六つをまゆり
此花ハ功者ニまゆりといふ

一竹花同と下ニおてまゆりの有け母ハ花葉ハ卑

此花ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

一花葉ハ功者ニまゆりといふ

花は後で細口ニ生えて終花者ニ合はる大枝之口は

花之枝は短し

花とがいの心こそ大きき
いじり

とらうとて
おろく



細合とて短し

花とがいの心こそ短し



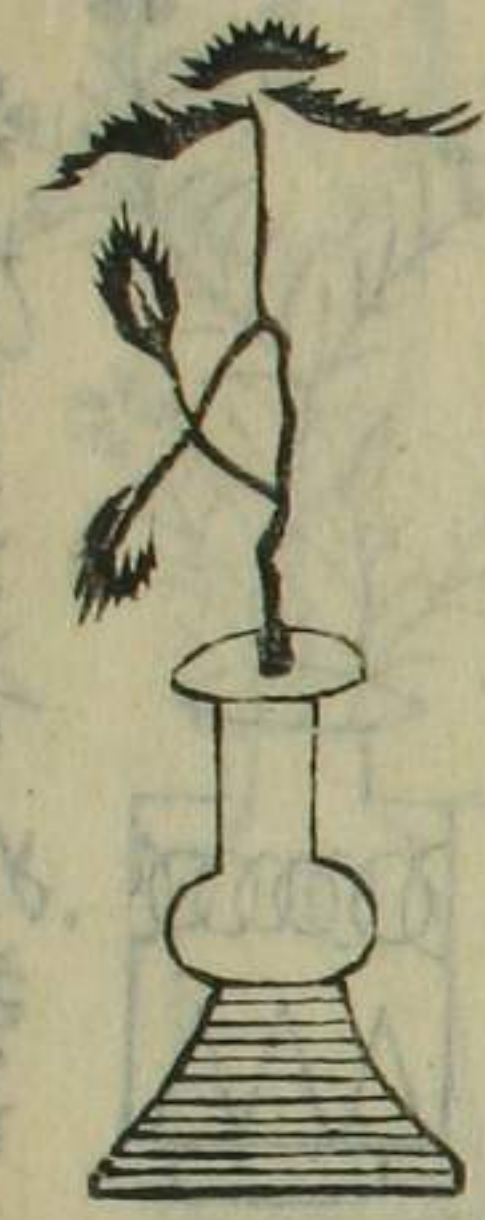
天とて心こそ短し



花は心こそ大きき短し



弓葉は心こそ短し



花は後で細口ニ生えて終花者ニ合はる大枝之口は



地とて心こそ短し





ひらぎこころ姫あま



天をこころ地をこころも枝
こころさうふあま



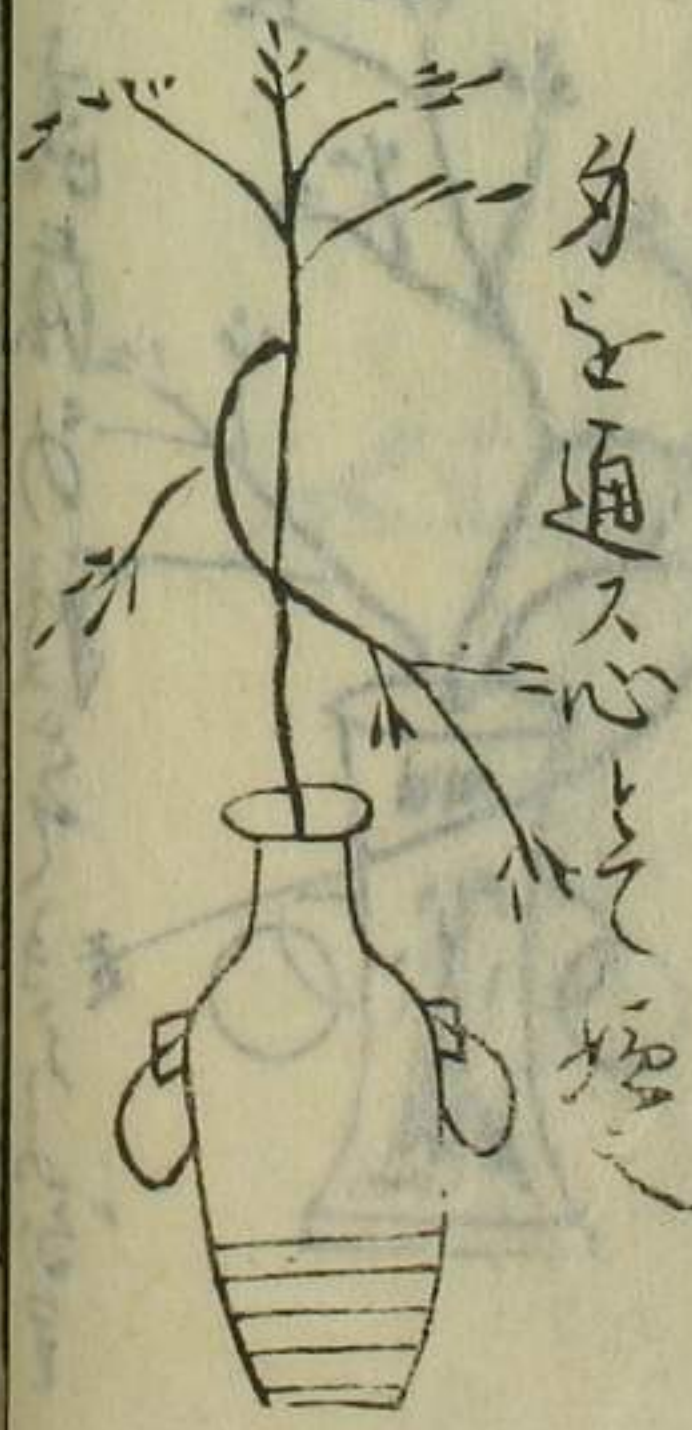
ひらぎこころこころ姫



十又字の枝とて姫



花をすくいの枝とて
姫あま



身を通す心とて姫



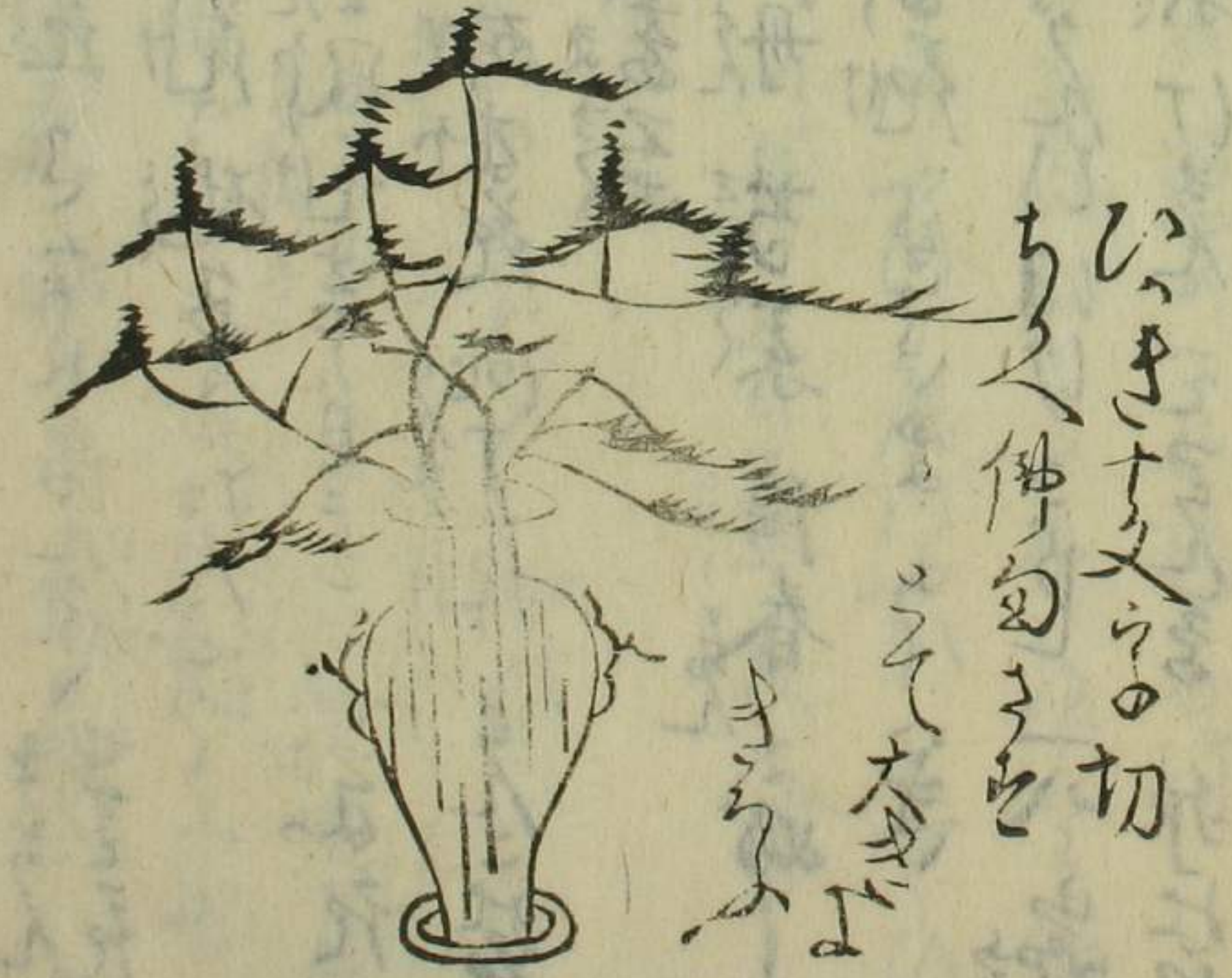
まんこ枝とて姫



節のこころとて姫



こころまの枝とて
まこころ



いさし十又の切
ちとて伸白うと

こころとて
まこころ

月々此花盛之部

正月 梅 羽日草 うはひくさ 椿 つばき 芙蓉連之花 ふようれん 二月至

二月 芙蓉梅 ふようばい 萩花 はぎはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 七重花 しちじゆうはな

一月 連翹 れんせう 三花 さんはな 目蓮花 めれんはな 桃多 ももた 三花 さんはな

小梅花 せうめいはな 小てまき せうてまき 全風花 ぜんふうはな 三花 さんはな 三花 さんはな

藤 ふじ 三花 さんはな 我妻菜 わづまな 三花 さんはな 三花 さんはな

二月 表人 ひょうにん 三花 さんはな 杜舟 とふね 芍薬 せきやく 停春 ていしゆん 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三月 如百合 にょはくごう 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

六月 夏菜 なつな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな 三花 さんはな

七月 仙翁夜 朝祀 自だん生 小車祀 母を海

ぎほしあく ひろかふをまがま 朝祀の事

八月 くらんたう くらんきく くらんくごう 水河のひ

ほま

九月 くらんたう 秋葉 くらんたう 小頃方 實益 くらんたう 自

くらんたう くらんたう くらんたう くらんたう くらんたう くらんたう

くらんたう くらんたう くらんたう くらんたう くらんたう くらんたう

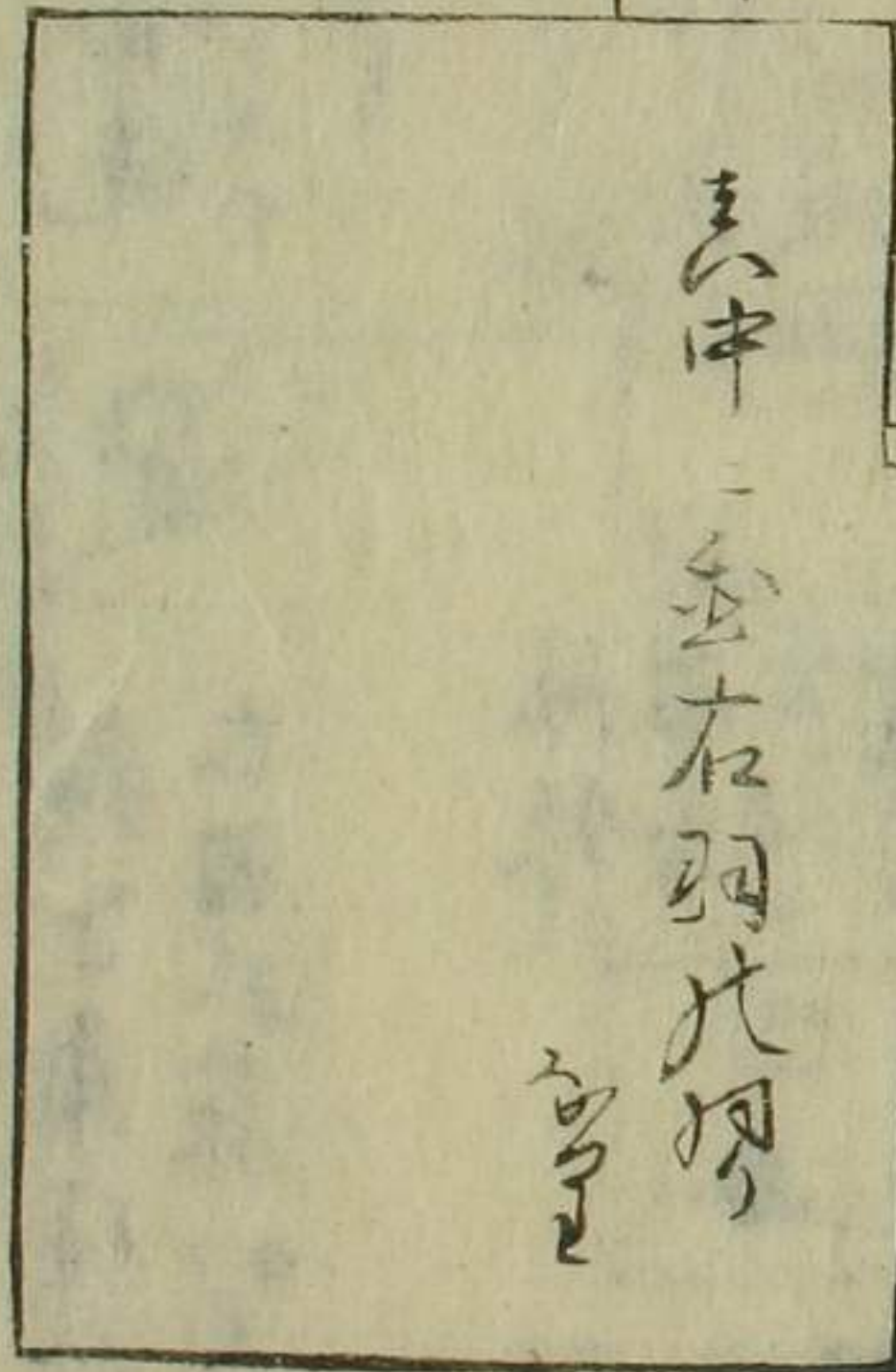
十月 朝心葉 茶山花 水仙 椿 子候梅 水は

十一月 椿 茶山花 梅 水仙 寒葉

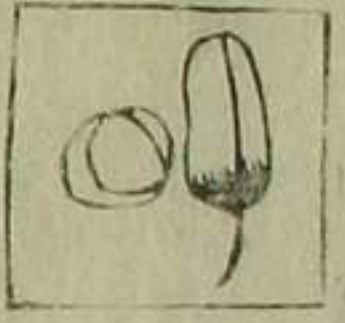
十二月 寒葉 寒葉 梅 水仙 椿

一炭此次

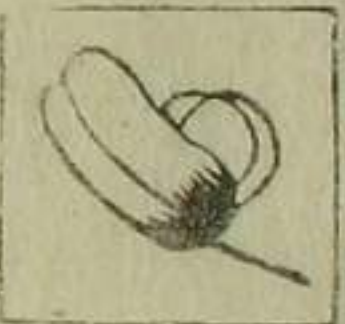
之を大炭ち置合八川



長中 一 至右羽此図



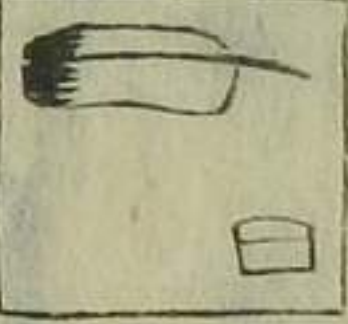
鉄三中央
羽脇五五
五五五



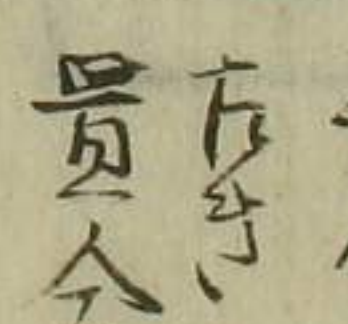
鉄と角投向楮
右羽此莊かくれ



鉄柳は角
此柱三向吹
二五五



鉄此
羽三
右向
楮五



鉄此羽三
古き香合此
貴合



古き茶合の
付真中五
右羽三
右五



古中三羽三
茶入とハウ片
五五五

三身大庄の

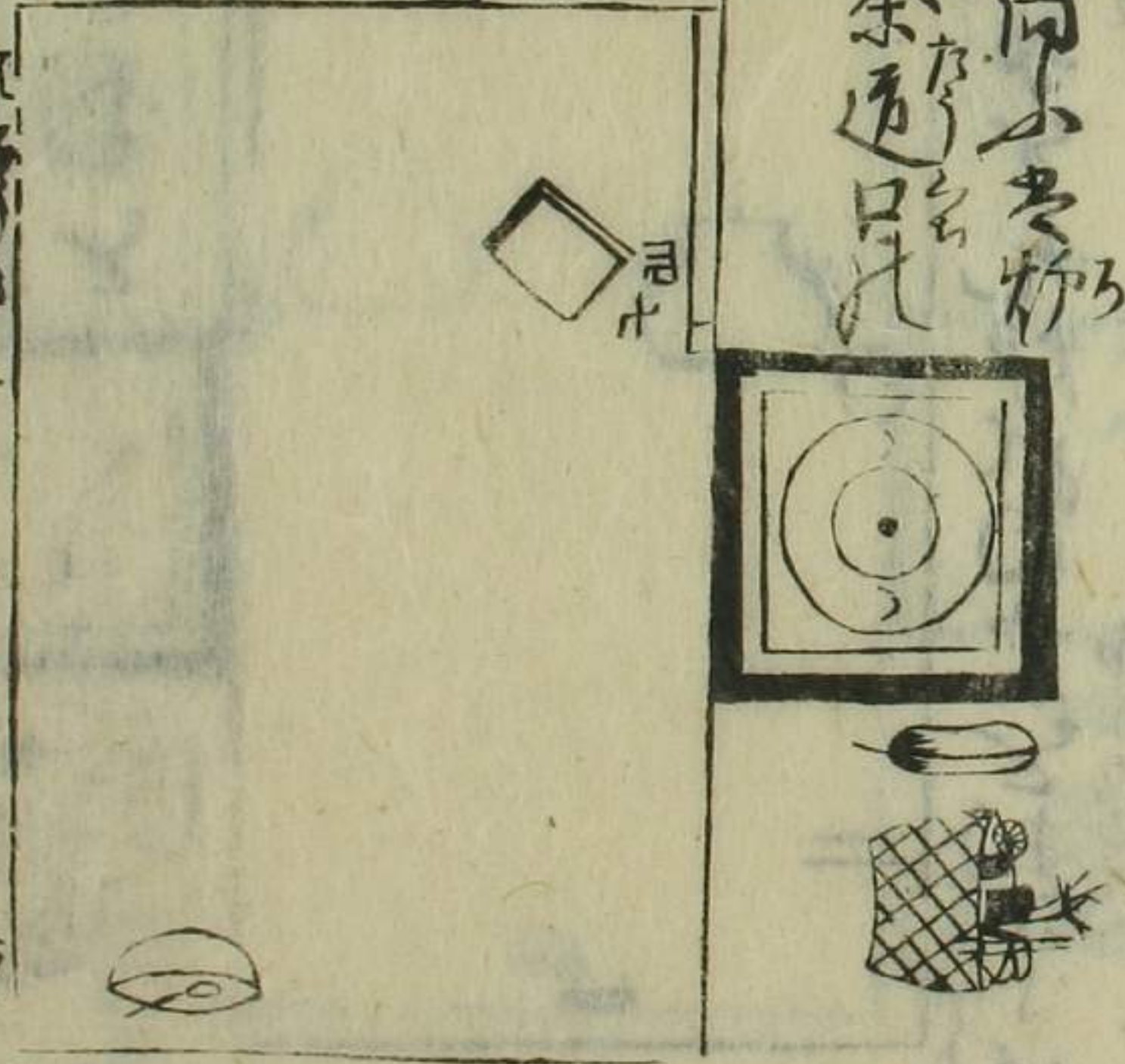
一廿三の庄かくれ先炭入と指出

此通ニ五之次ニ茶通只

たて付(土鍋)と
入柄く也お茶た

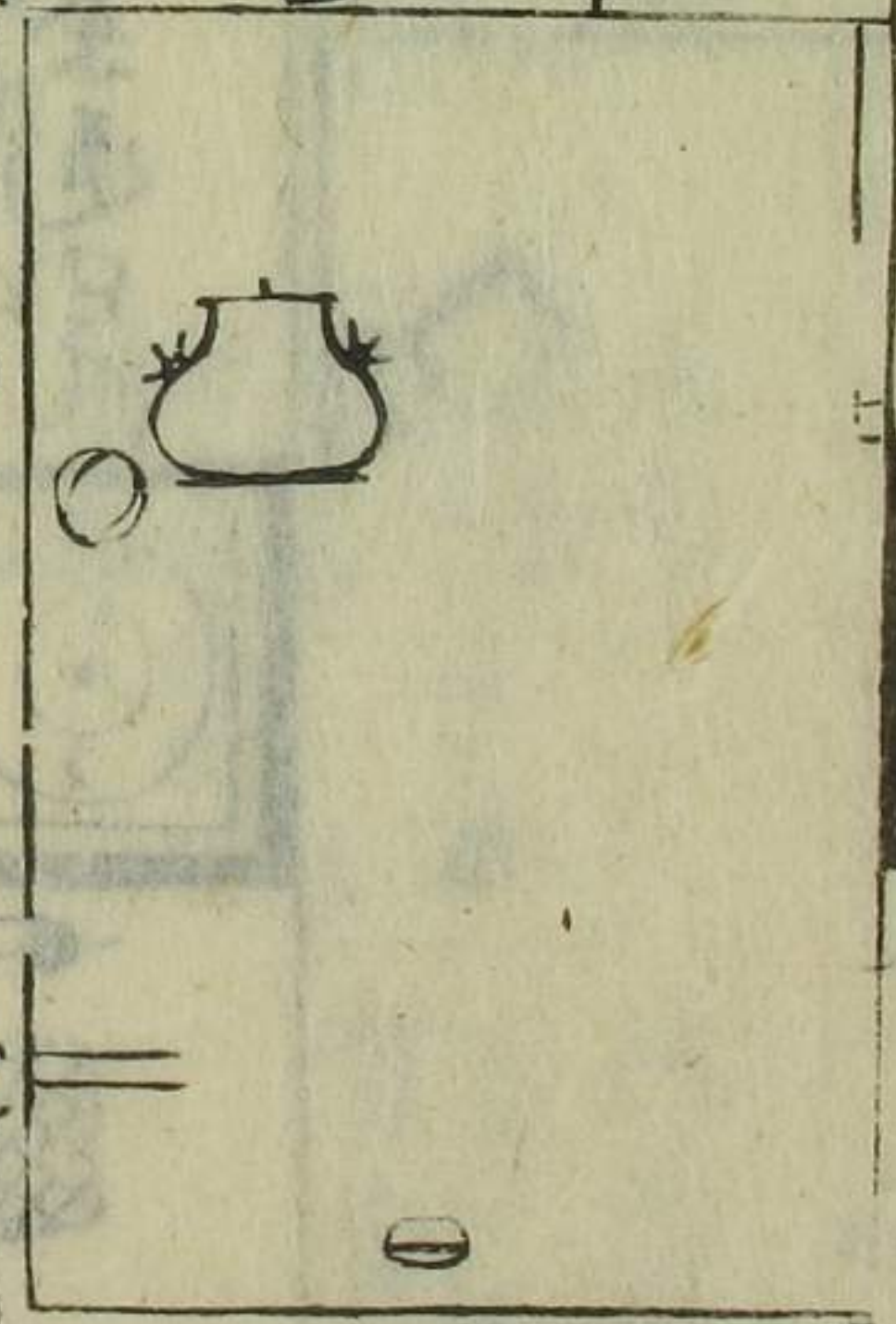
口と五びるの
茶ニ白ひぬら

志免帳巾と納り
羽三市此先と五
楮と五五五



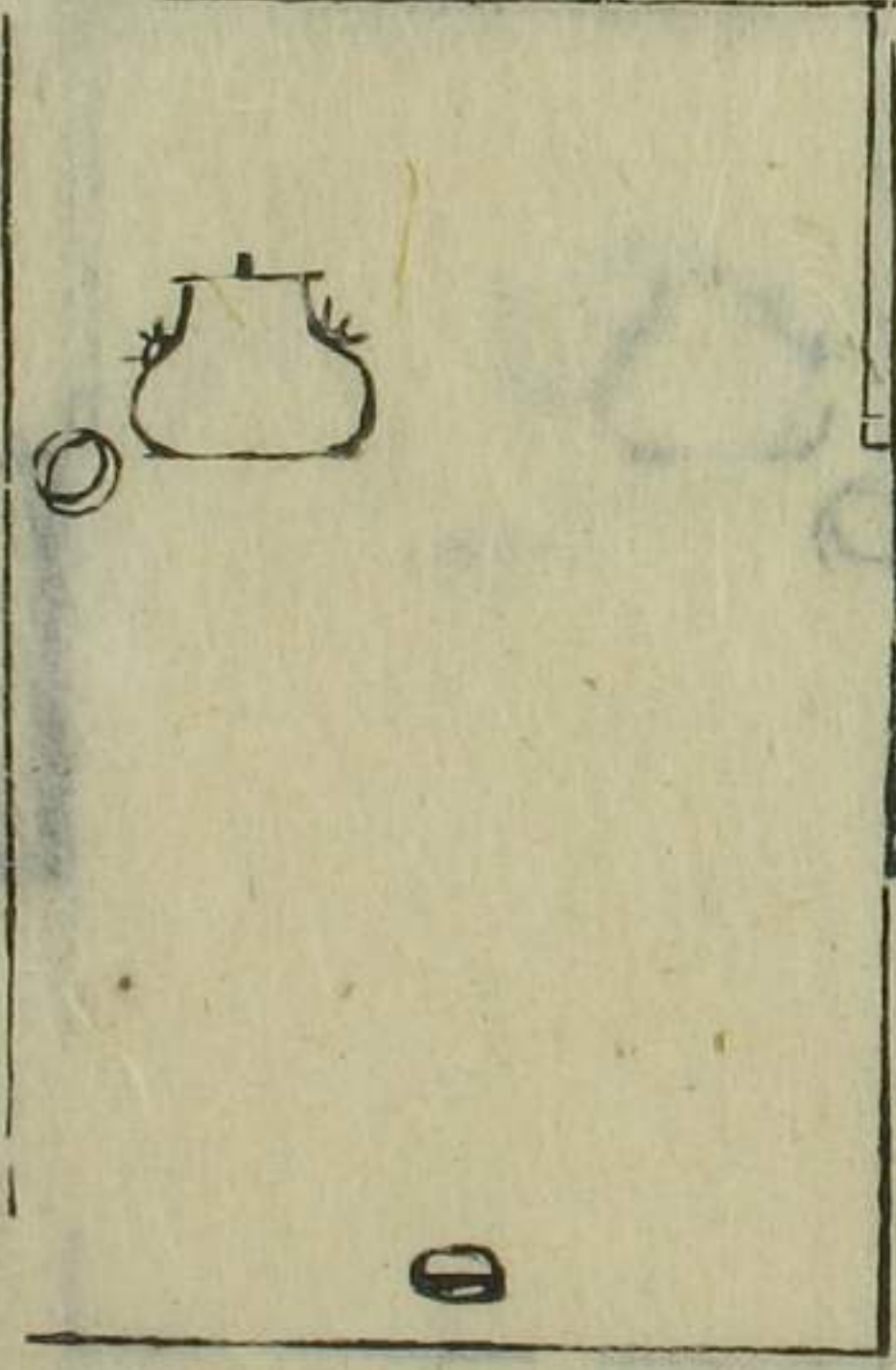
垂也又番合と九生一一口れ其申
 後紙と九生一一口れ其申
 冬と上を後番垂ると冬と

冬と上を後番垂ると冬と



又爐に向い羽子帯れ
 又爐に向い羽子帯れ
 又爐に向い羽子帯れ
 又爐に向い羽子帯れ

不又垂ぬよし自炭備炭細すこれと土滴へ添へぬ
 垂すこと指指新くおろし
 向ふしと垂ぬ大もと炭炭れ



此何と炭と炭れ
 門除合る合れ
 手れ炭れく炭れ
 刻炭れしと玉之山炭
 仕とたつ時り炭れ
 如時と炭と九口付昔炭とすこれと炭れ
 く竹不と玉之山炭と炭れ
 炭、面と向ふと炭と炭れ

土鍋生一炭九出ー細羽帚九て縁と多次候

と多しと佳れ尻と多し極此

角と羽帚細炭及此

此又多しと

吾あると又

向い尻巾と蓋及

湯のぐんとらるる

中ハ蓋と先ーち

おけ口と九り掃子へ五く片口此上蓋と片口

全始きことかゝて掃生全一かくて此蓋と下掃子水と

此又吹し蓋及片口此蓋と下掃子水と

何く此方と掃てのちと入り口傳下と此蓋

冬に此の巾ひき蓋及

中ハ脱い蓋しちと

左しおと冬

此と巾ひ

口伝下と

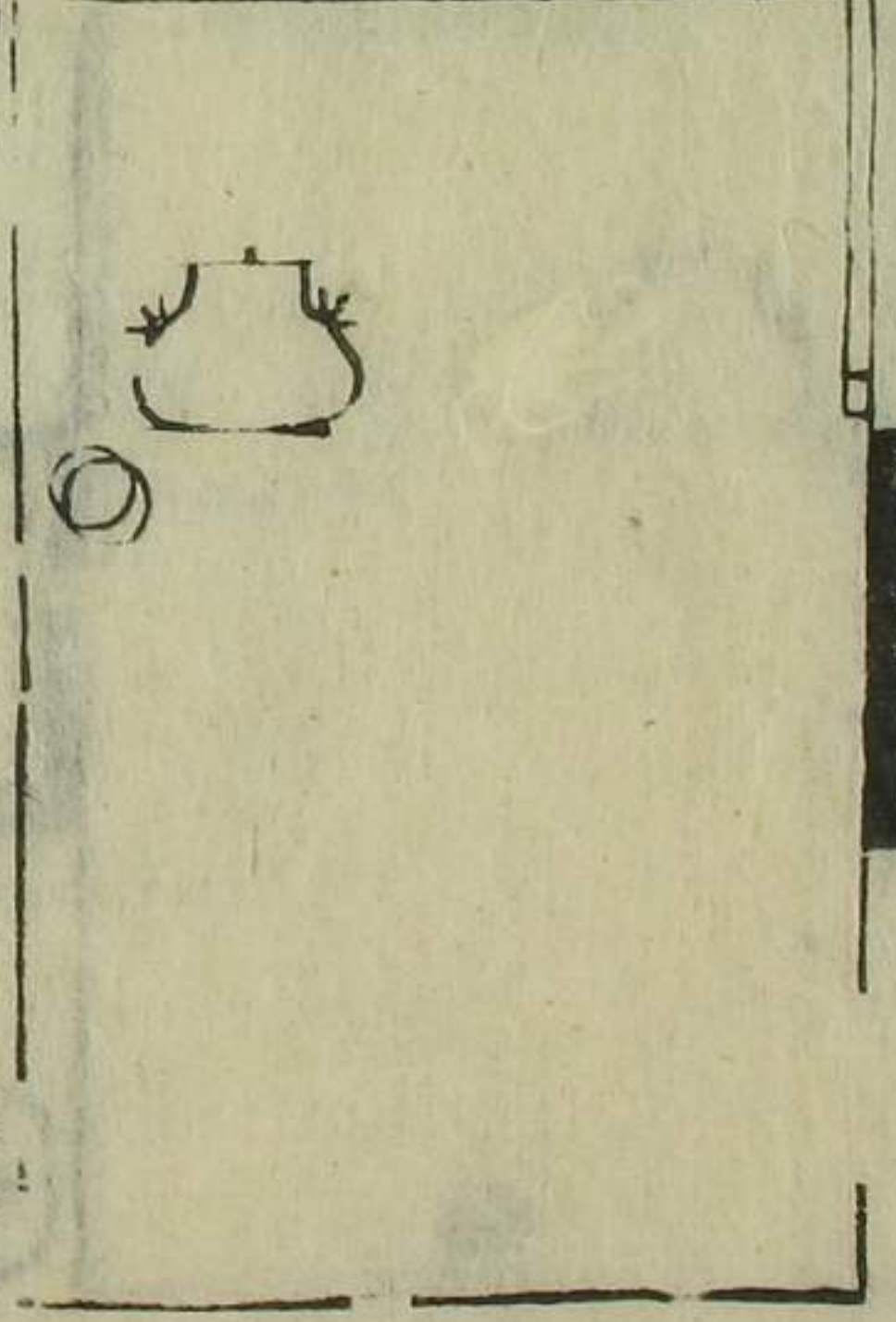
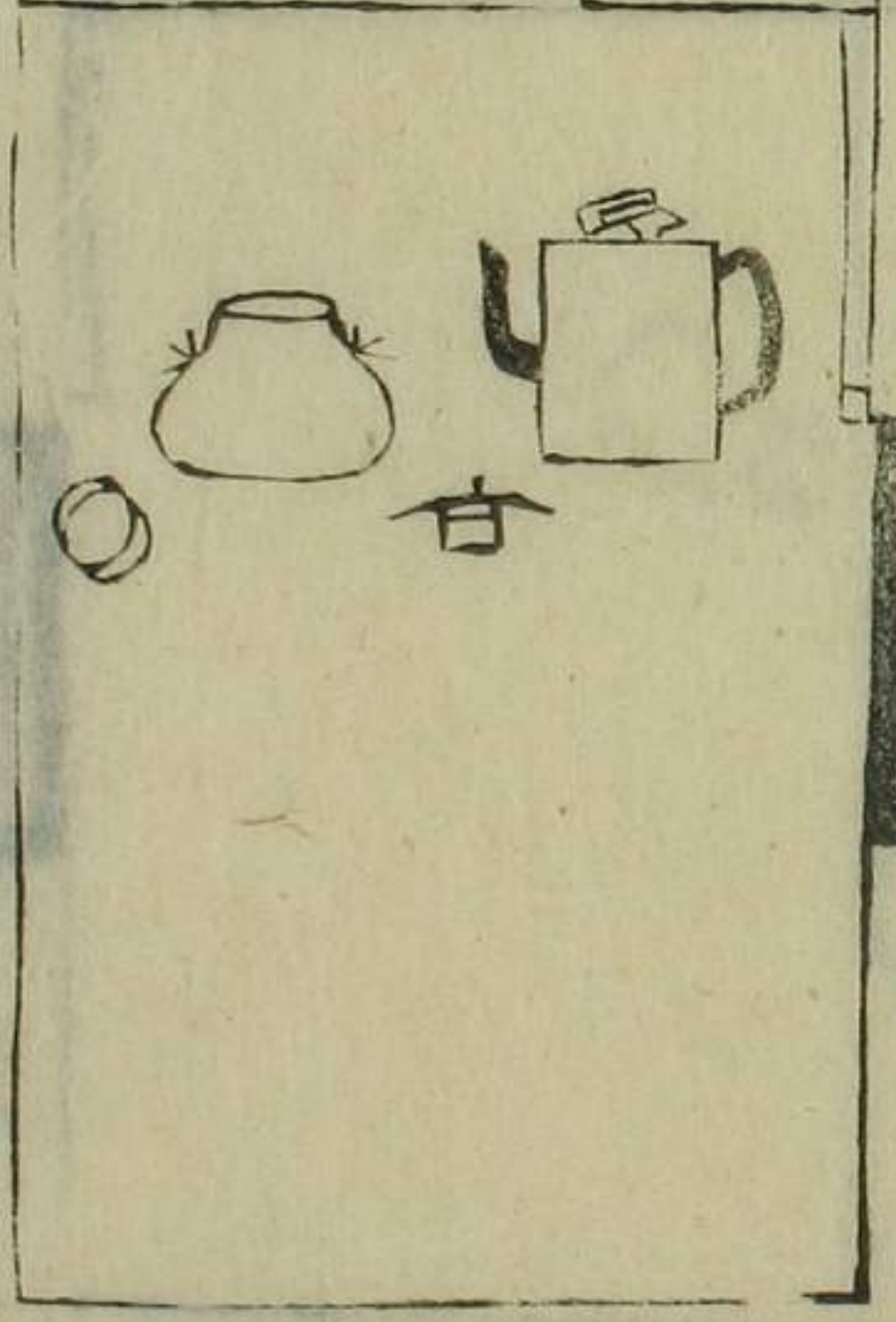
鏡け本柱と

掃子向い冬

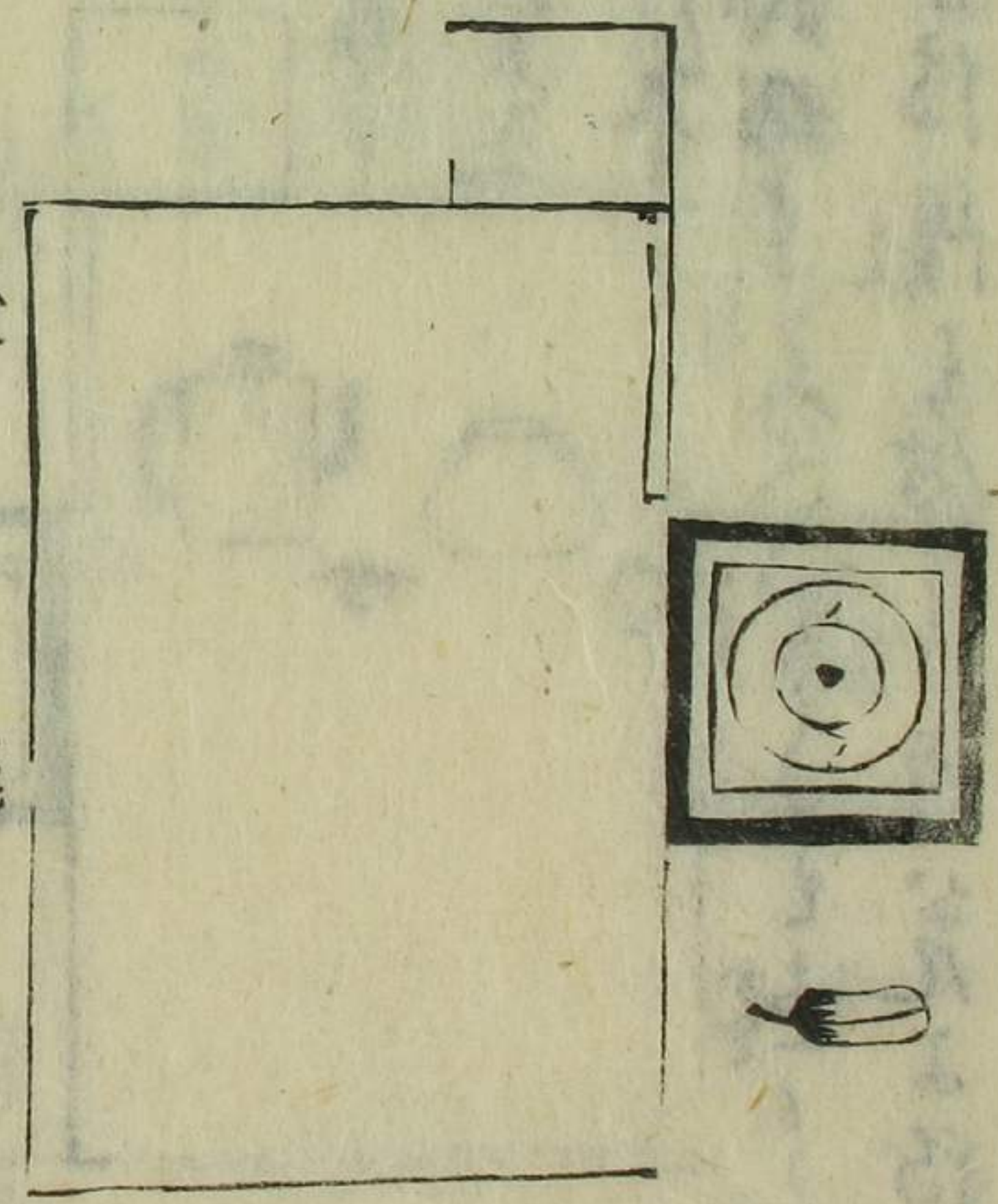
と懸先お波物と入り入り冬と

掃子向い口傳下と掃子へ五く掃子へ入新く扱又かて

と大月此のちと掃子へ入新く扱又かて



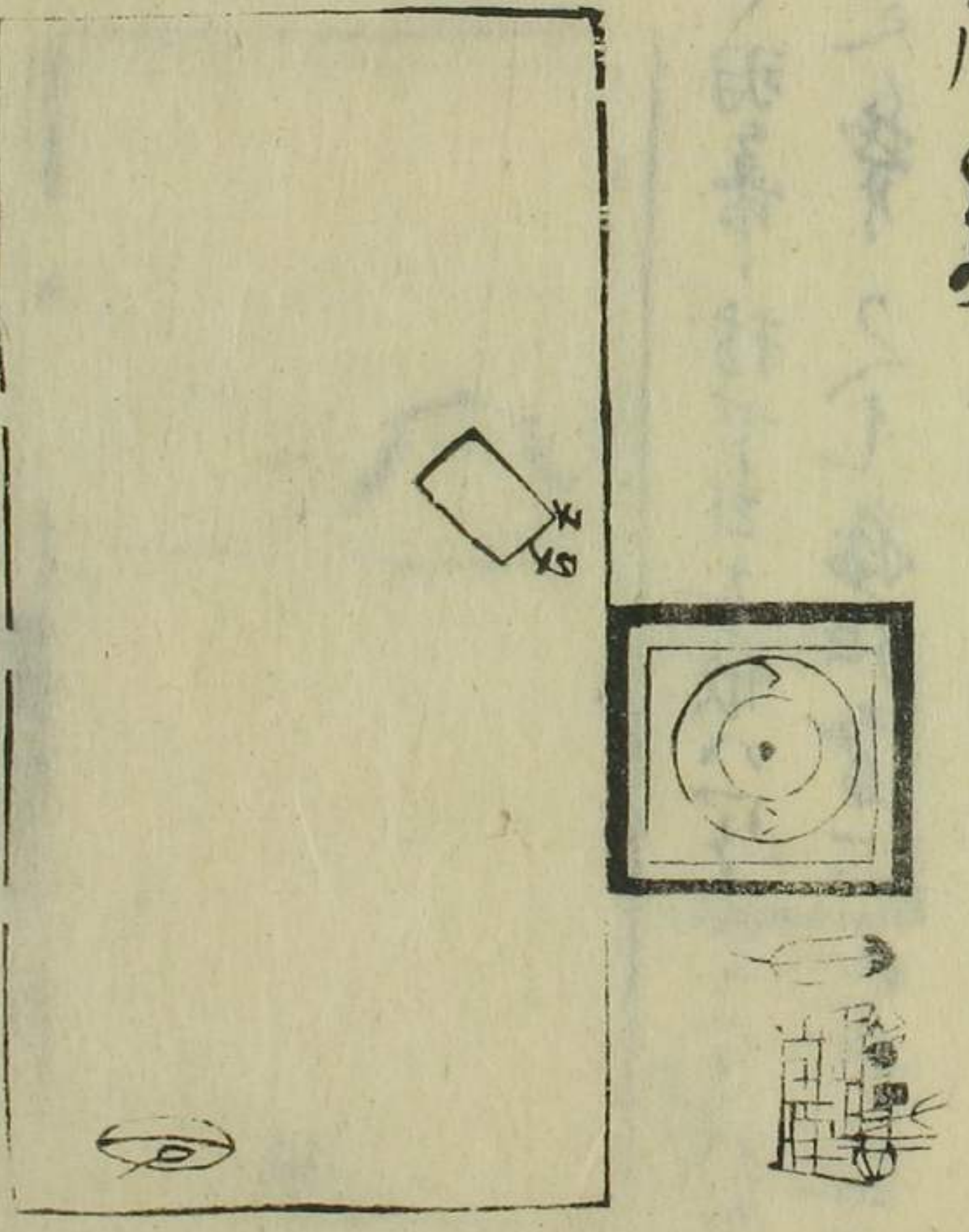
悦巾之極細の久の改く至れぬ九うけ



垂るるをさくさく音合おとと取て入るるを
時程を極入るるに極く其之極細の極細
才二二才やと極く其之極細

四角すすすす

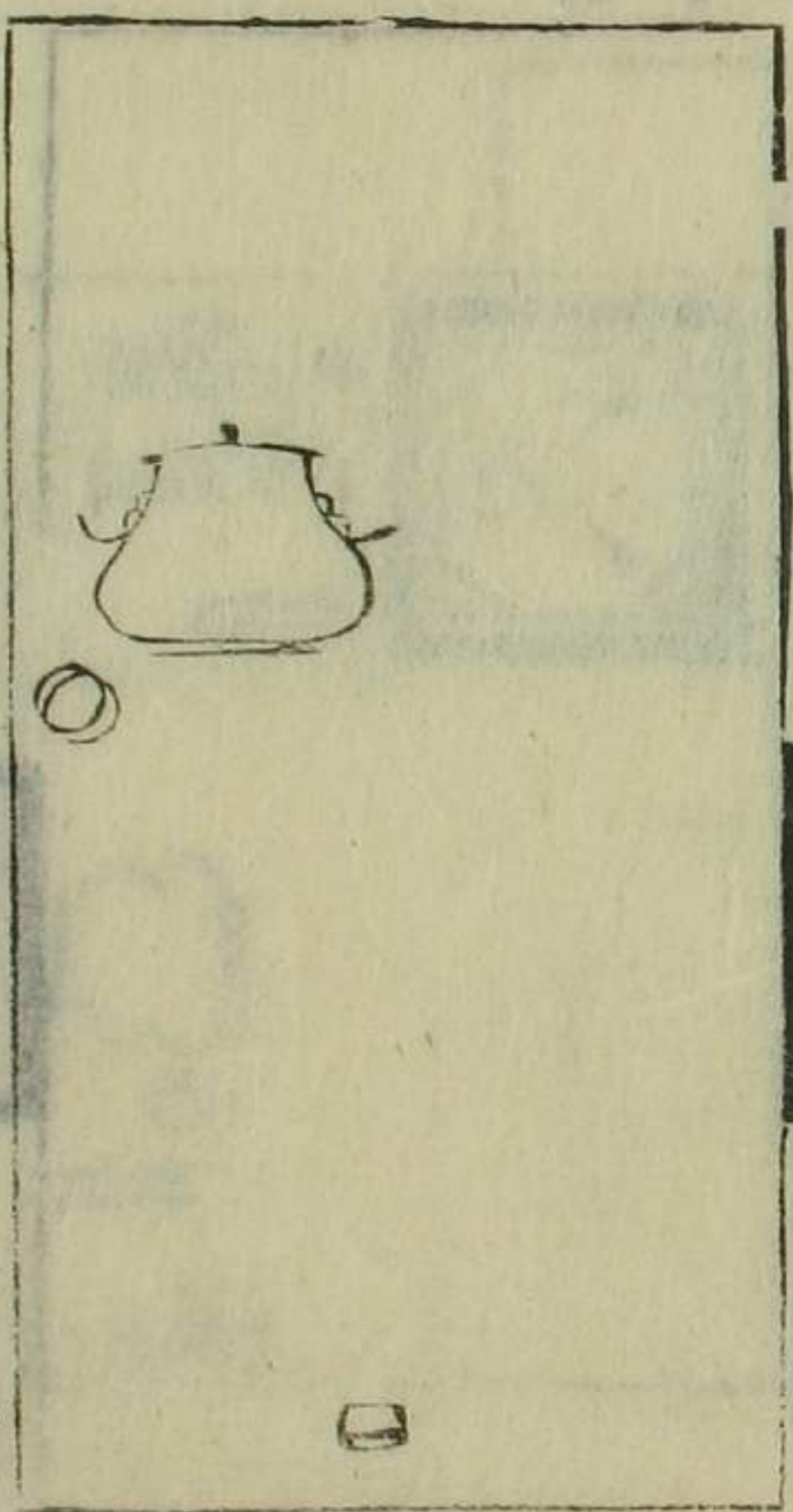
一
入極細の久の改く至れぬ九うけ
羽帯をさくさく音合おとと取て入るるを
才二二才やと極く其之極細



大為骨此く羽常持せむち取ハ口もくもは能る
 ハ層低より故之弊之七種張る道ハこもく大は姓
 く流る立りけむ



漢此玉板之重く大ニのりり方又節一高仕色者命
 出—出入土編—編子き—又主は湯かかんどん
 又編子—入行口—水を入竹筒冬枕子持て



冬と書けりやと云下、冬とぬき

言冬に北を九斤の中を魚と

のけ冬に北を三と云と他

減入て

冬と冬を悦

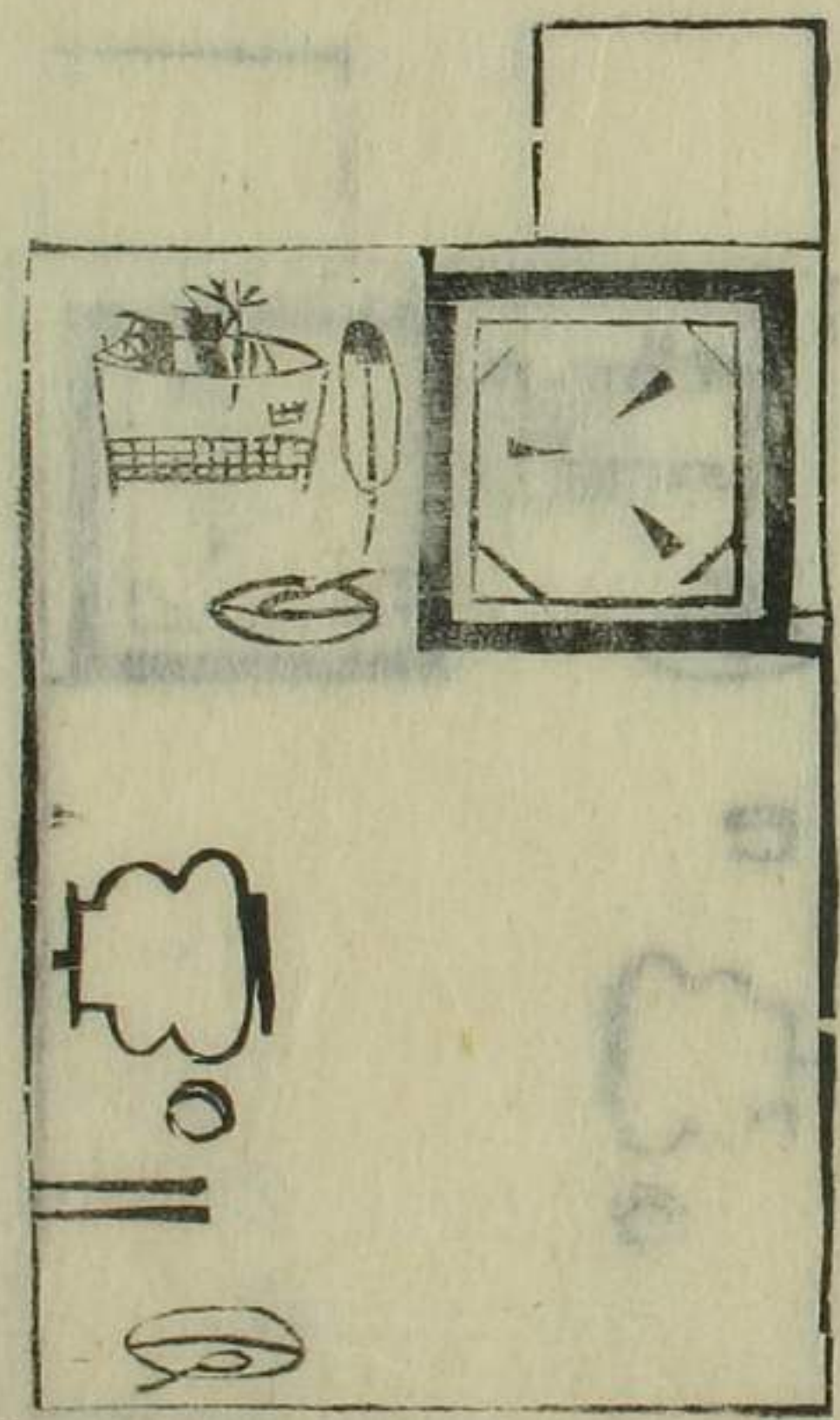
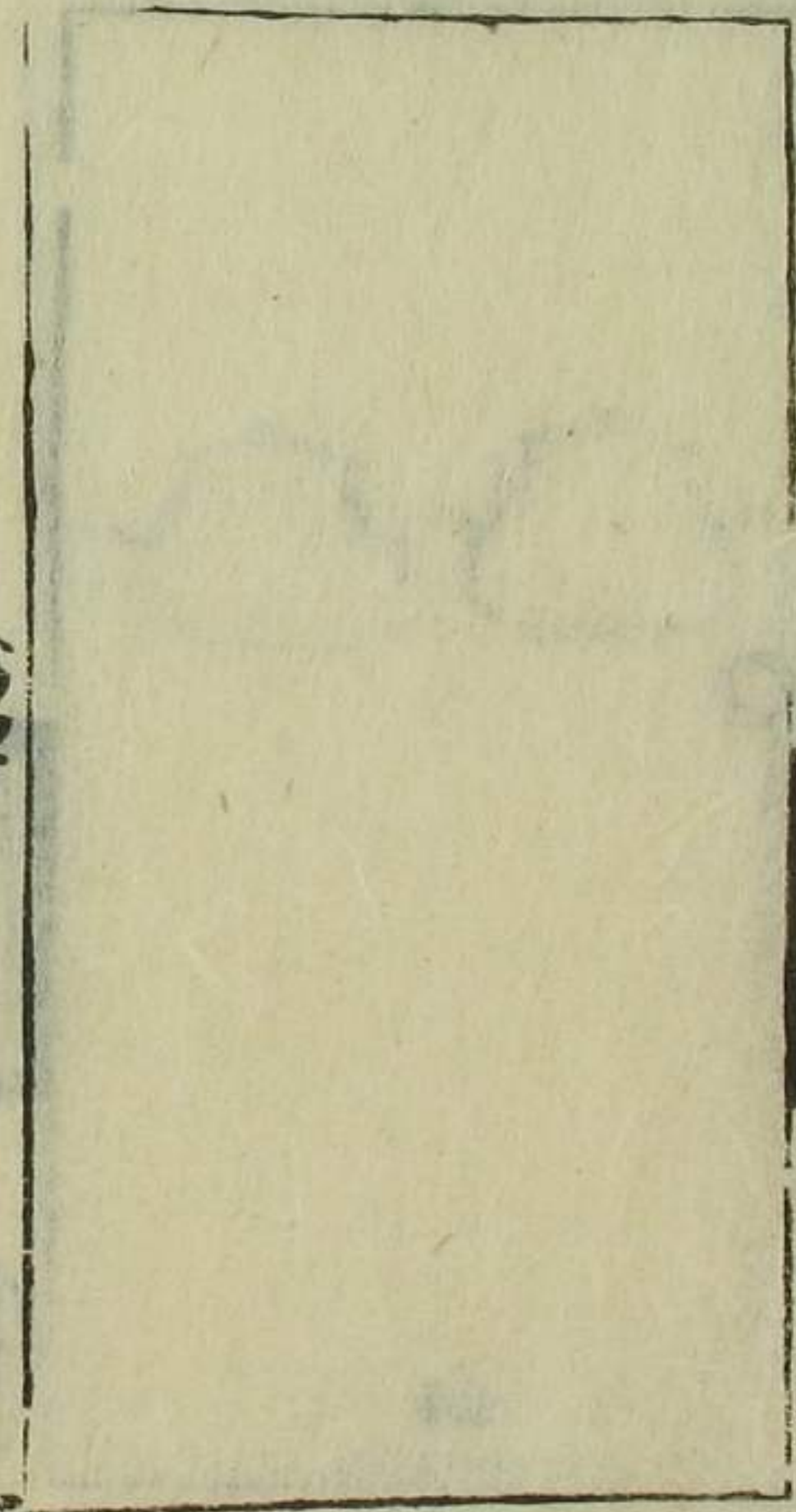
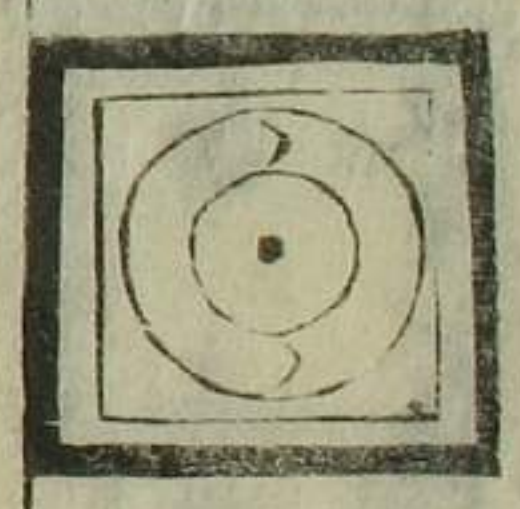
巾の冬を悦

一、行の悦

一、行の悦、冬と云け行き、冬と云け行き、冬と云け行き

冬と云け行き、冬と云け行き、冬と云け行き

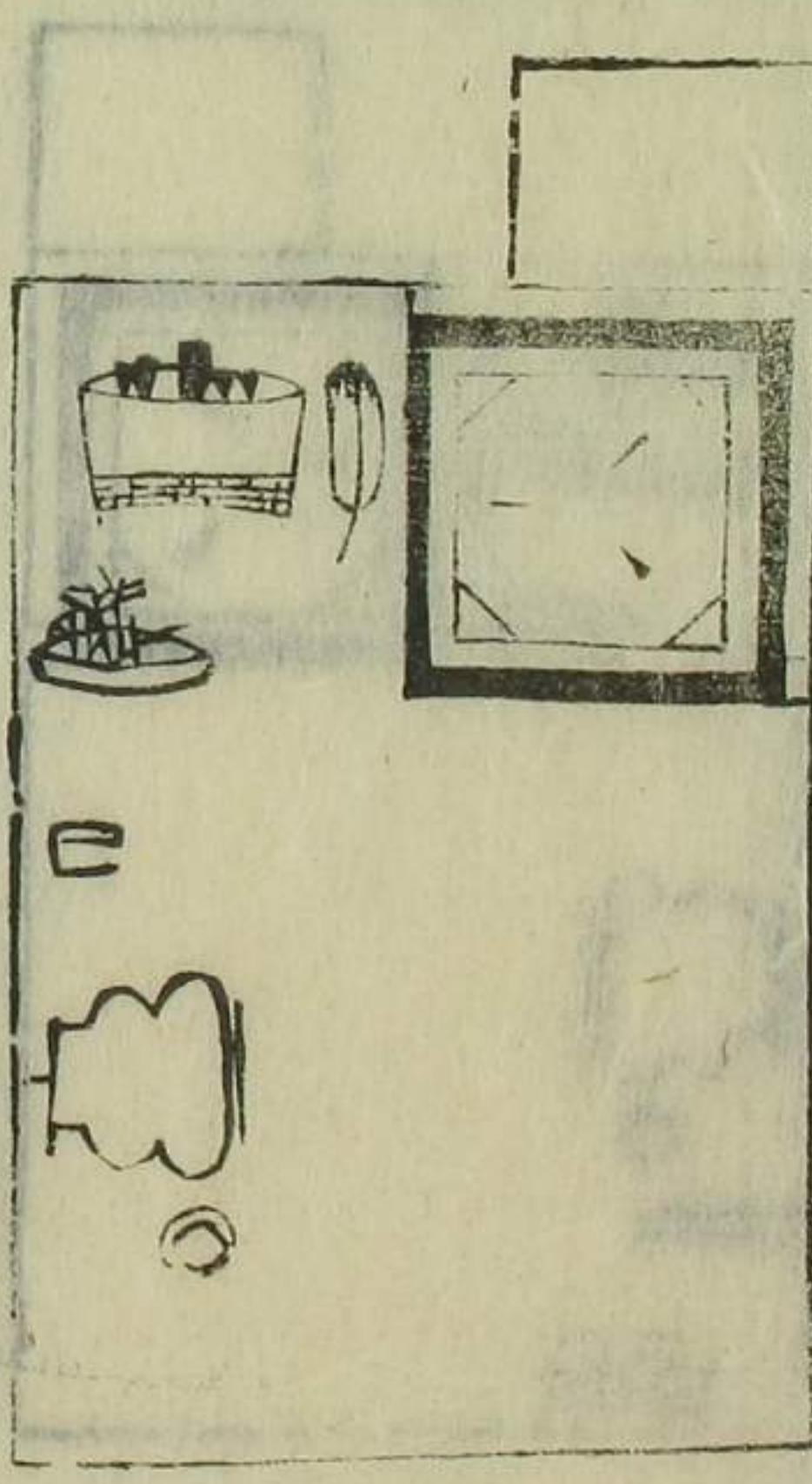
一、行の悦、冬と云け行き



音の字

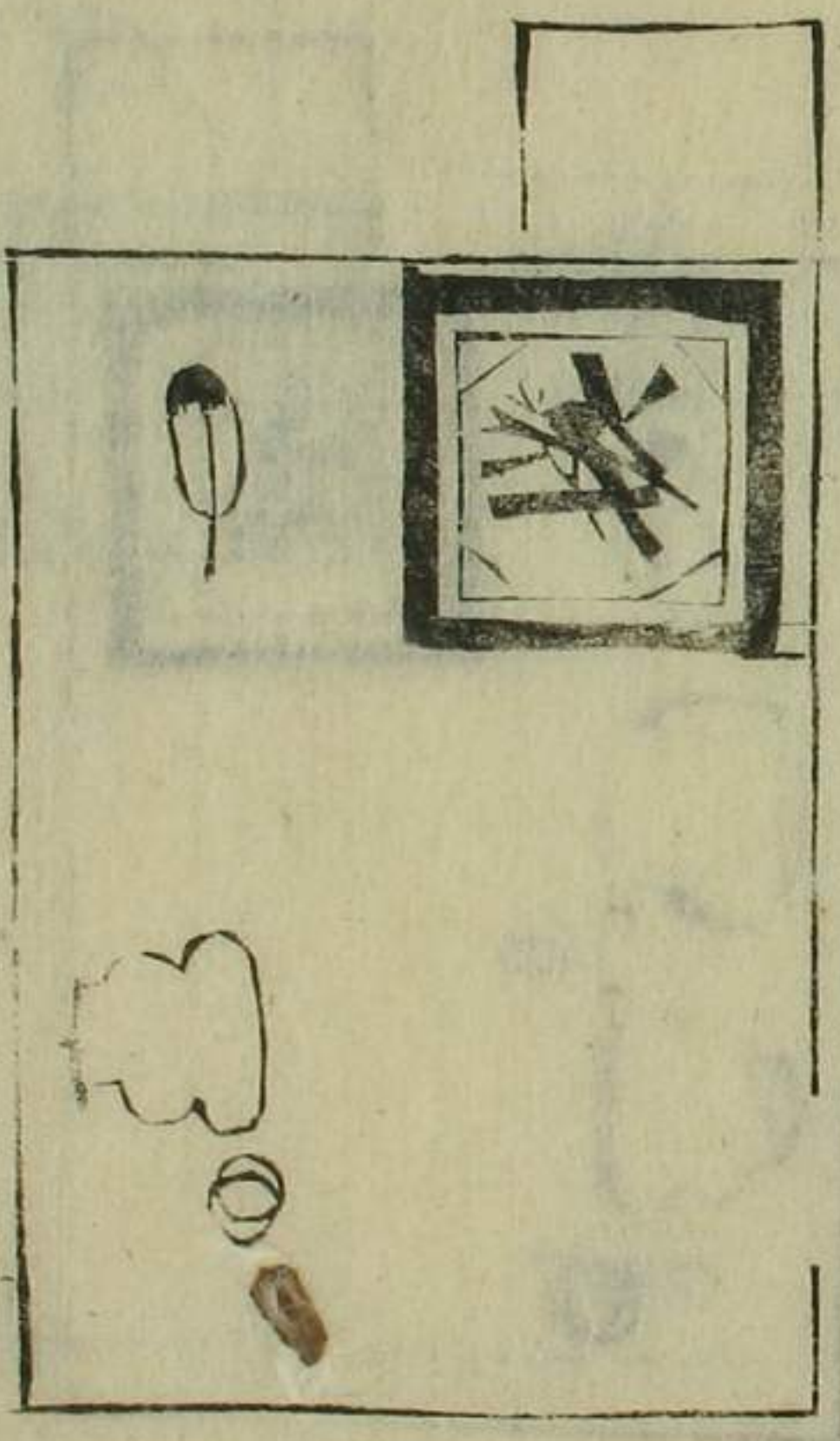
一、行の悦、冬と云け行き、冬と云け行き、冬と云け行き

予りるをとり上之想し一をすよるを此九
 ちりり大支たゆの四角す九三と然るを
 二心得るをたふふ端たふ又たふ上あす



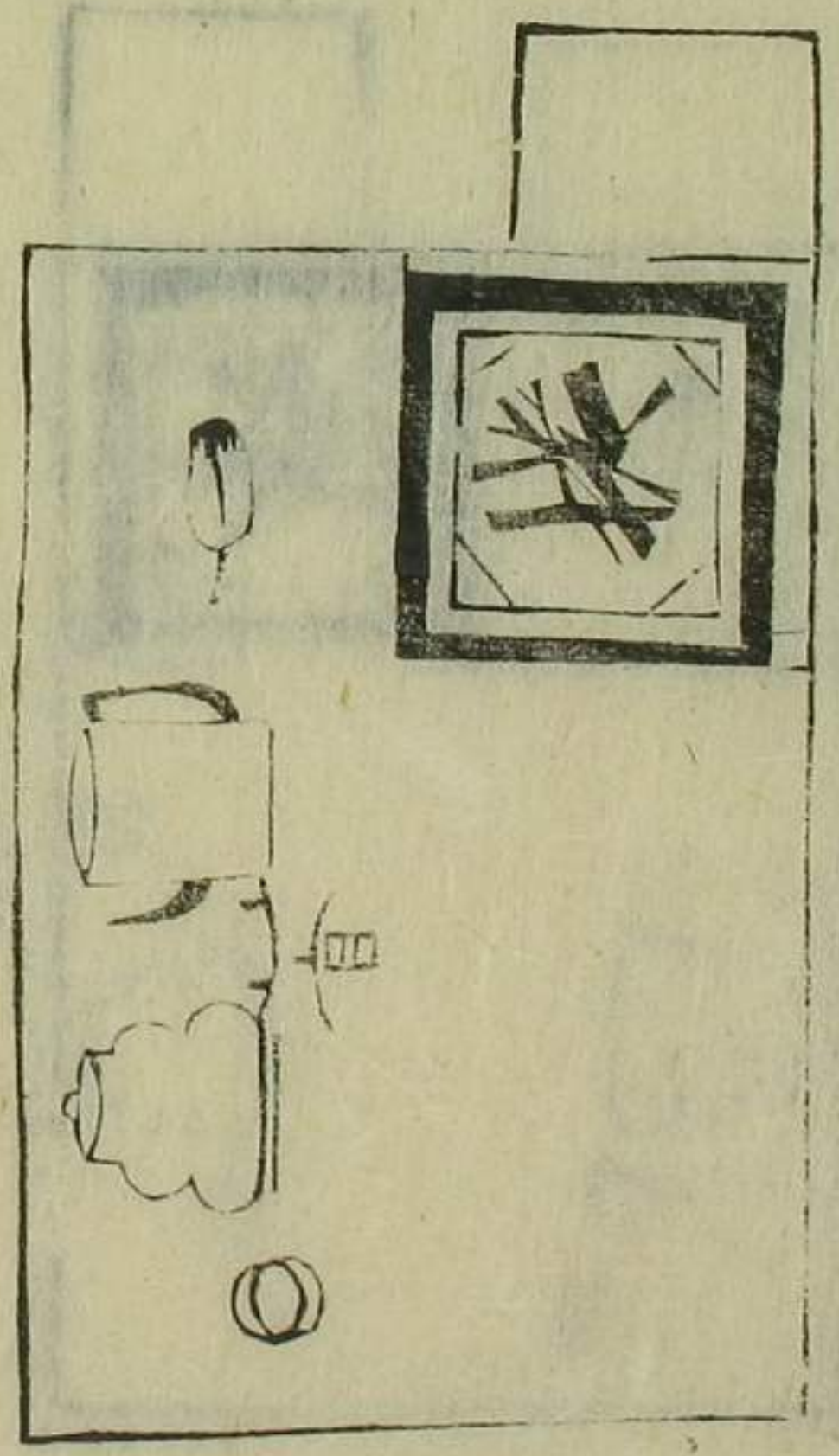
有るは後ろ一り各あけを短向いすすす
 少あはれをとりりくはゆよりあす

讀位とと舎合ああ一入土館法よ
 及入初希しを手い強立法風七掛ひおと



一帯はくを音解らるる畫九湯此
 尼て畫しゆ揚且入片日物出

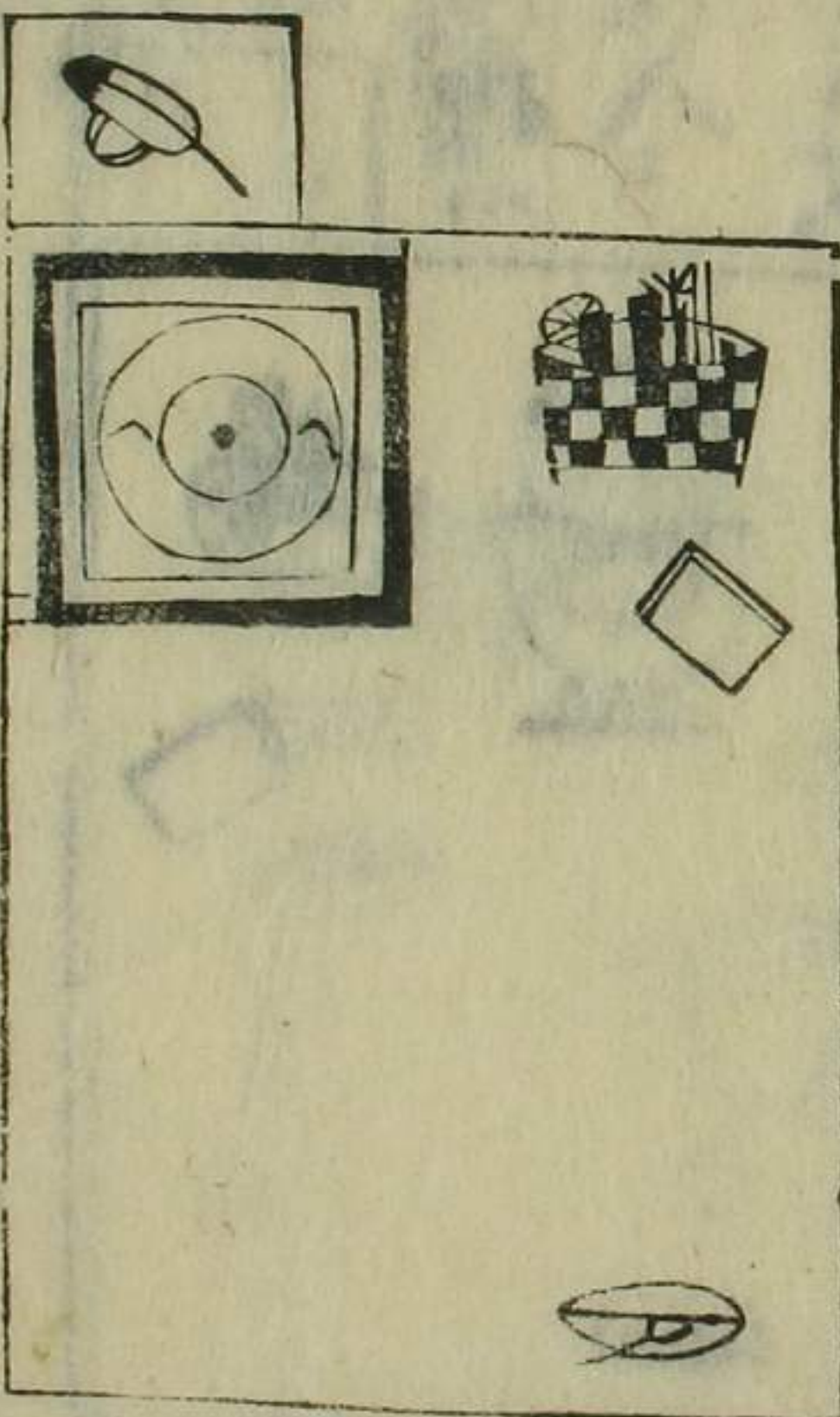
行口端れ〜〜
 口は...
 ...
 ...



...
 ...
 ...

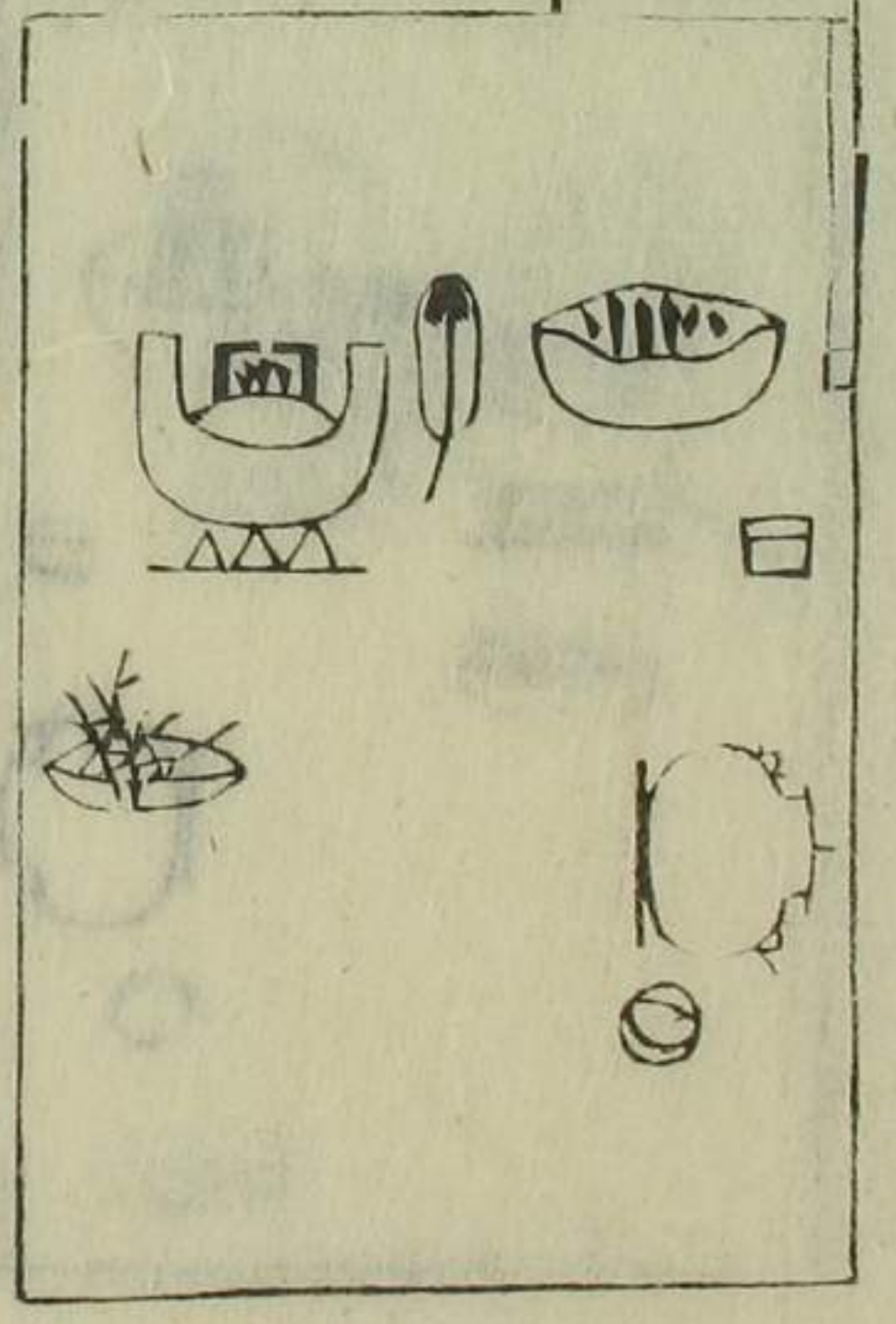
一 舟半右播ま 炭もあ

一 羽^{とく}市^し 鏡^{かみ}はかへとる海^{うみ}八^{はち}岸^{しづ}入^い持^も込^こト^と 到^{いた}乃^のか^かれ^れ羽^は
 第^{だい}九^くの^の入^い時^{とき}之^の九^く後^ごは^は上^うる^るか^か

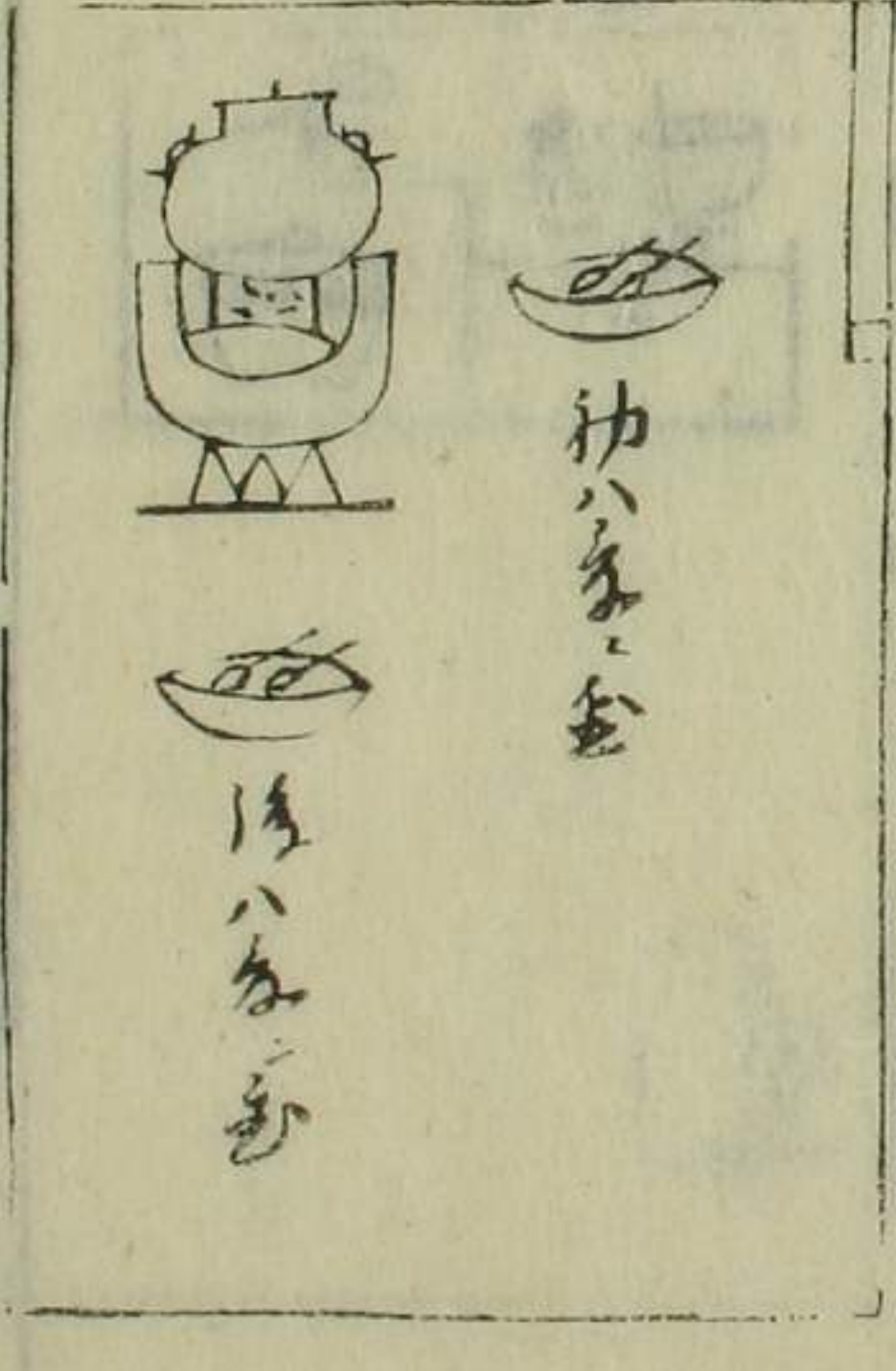


一 廿^に屋^やの^のあ^あは^は仕^し横^{よこ}ニ^ニの^の者^{もの}方^{かた}
 ...
 ...

て後日一五斤口と指出水とさく人一日くす此心
 一水ハ揚也此行口ハ少作之今及蓋玉とあて
 有文一一口と注之後日(巻)一スレ之凡好此さハ
 玉の又後日
 子勝と立四く
 蛇のくもさくこと音て
 不全此繩と中
 錦さぐく御さへ
 一土隔九凡好はか(巻)一原此くまじことか
 ことセ土隔御さ(巻)一スレ此蓋九けて香合九
 一秘記ハ御さ(巻)一三歌さ酒此同色ハ毛さく入く



凡好此炭ハすことすり口ハ人此るくあつか
 一故(巻)と小口炭砂のく自出とるくまじことさ
 一凡好此炭ハ全此(巻)へつて向とん(巻)出入御
 ますり(巻)御さく
 考此(巻)ハ全
 此(巻)へ(巻)と(巻)
 一巨凡好、竹へて白
 此(巻)へ(巻)が(巻)を
 一右(巻)此(巻)すこと(巻)る(巻)あ(巻)か
 一此(巻)を(巻)さ(巻)る(巻)之(巻)凡(巻)好(巻)と(巻)か(巻)たり(巻)し(巻)る(巻)角(巻)凡(巻)好(巻)は(巻)さ
 一左(巻)此(巻)に(巻)同(巻)く(巻)る(巻)と



惣して炉中下の紙を二摺口付

一 風櫃五徳伏座月土蒸寸法此事

一 五徳此紙より風櫃此紙より五寸五分此全

二 係了口付と法より土蒸此紙より一寸五分

一 土蒸此紙の上より五分此紙より一寸五分

一 紙一付此紙

一 土蒸置五徳此角と土蒸此内とと法此と

と尺通く口付

一 尺此付座一方山之此付一方口の各紙よりハ

一方各三の紙よりハ紙深一ハ紙風櫃ハ向

より口付て移り紙此紙より五分此紙ハ向

は志此紙と立てしるるあり

一 風櫃此紙ハ紙此紙より紙ハ紙置之ハ紙櫃此

と少きよりせて紙よりハ紙櫃の紙也

一 土蒸子此風櫃ハ土蒸此紙と紙で付て向よりハ

より紙ハ大流此風櫃此紙ハ紙あり

全吾紙寸法此事

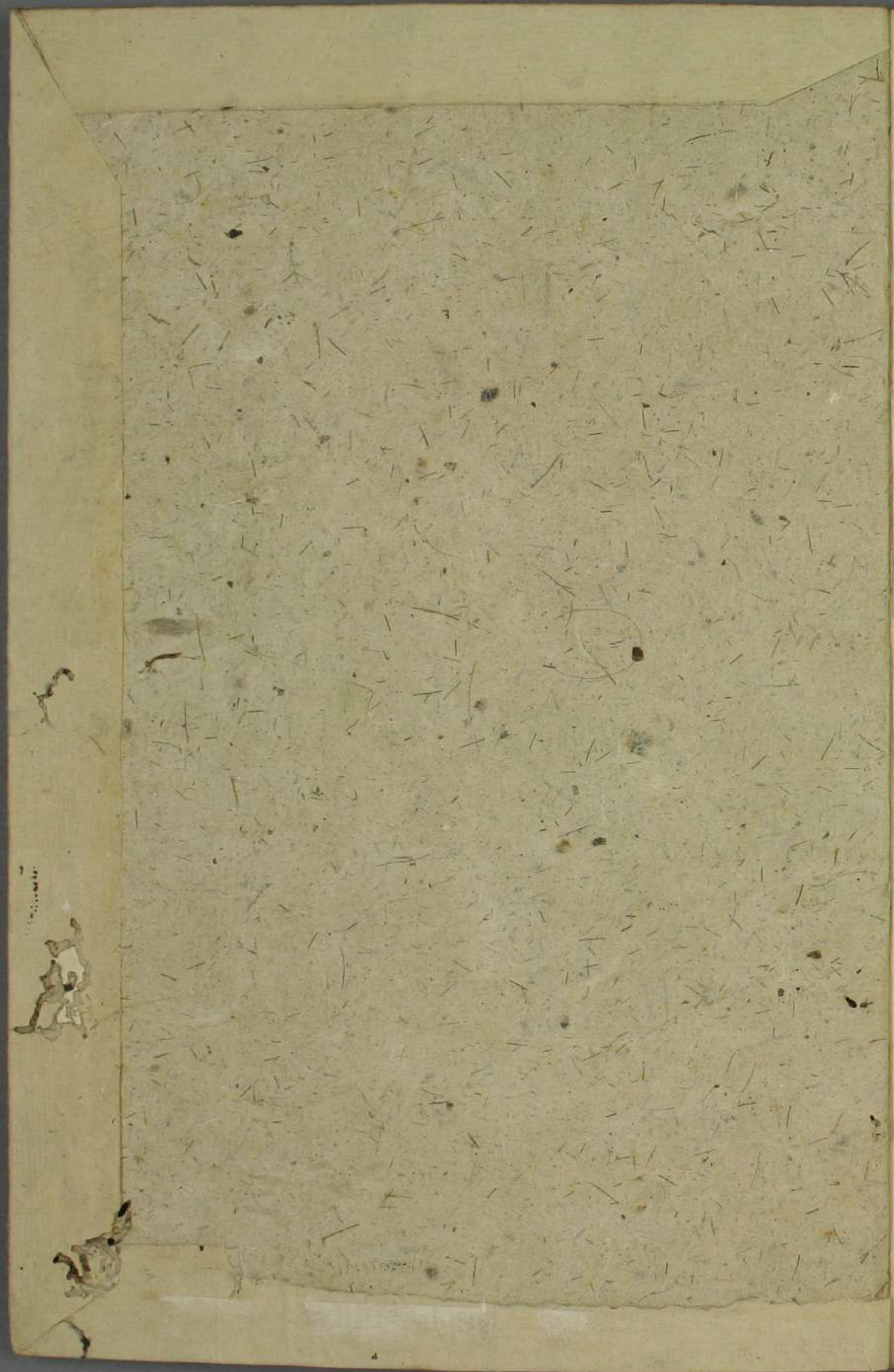
一 長サ四寸五分 厚二寸五分此紙此の紙

と用紙紙紙ハ紙紙数十と紙計三より

炭の紙此事

一 土蒸此紙此紙ハ紙細炭此紙自厚ハ

也土蒸此紙ハ紙ハ紙と紙此紙ハ紙此紙



Handwritten text in Japanese, written vertically in blue ink. The text is arranged in several columns, reading from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher, but appear to be a formal document or letter. There are some small marks and a red seal on the right side of the page.



Handwritten signature or name in black ink, written vertically.

